

共生型カフェの活動で見えてきたこと

滋賀県認知症介護指導者

細江恵美子

キーワード: 繋がり・見守り・支え合い

活動の概要(活動の主体:任意団体)

【活動目的】

私たち明るい未来のメンバーは介護の専門職やソーシャルワーカーの仲間で運営しています。メンバーは認知症に関する専門的な知識を生かし、地域との連携を図りながら認知症があるなしに関わらず、住み慣れた地域でできる限り住み続ける街づくりに取り組みたいと考えています。

【活動内容】

- ・共生型のお寺カフェを毎月1回、日曜日に開催
- ・ミニイベントも開催している

活動のきっかけ、背景

お寺の住職様との繋がりは、私が認知症サポーター養成講座のメイトとして活動した際、「何か力になれば」とご相談を頂き、認知症カフェの運営の提案に賛同頂き、共催で共生型のお寺 DE カフェを実施することに至りました。住職様より「高齢者のご自宅に訪問すると身だしなみが依然と違っていたり毎月のお参りを忘れていたり、お部屋が以前に比べて片付いていない尿臭がする等 認知症かな?と気になることがある」とお話を聞く機会がありました。住職様はご自宅に訪問する貴重な人材であり、ご本人が気づいていない若しくは相談場所を知らない方への橋渡しや地域の見守りになって頂けると考えました。

活動の経過と成果

【活動の経過】

(明るい未来)と(真宗大谷派 阿星山 長壽寺 楠 直樹様)の共催で、共生型のお寺 DE カフェを毎月1回、日曜日に開催しています。(本年度は、コロナウィルスにて休止)運営スタッフは、介護の専門職・臨床宗教師・精神的な病のある方や認知症の方等、その日の体調に合わせて気負わず参加して頂いています。認知症の人と家族の会からもご参加頂き、ご家族のご相談に応じています。カフェの自慢は、スタッフによる手作り、いつも工夫を凝らし、参加者の皆さんにお茶と共に楽しんで頂いています。参加する年齢層は老若男女問わず、小さなお子様も楽しんで頂けるように、子ども遊びコーナーを設けています。毎月ミニイベントを開催し、音楽や折り紙教室・親子で流しそうめん、臨床宗教師による「もしバナゲーム」、お寺でクリスマス讃美歌や座禅会等を実施しています。今年の2月は、京都にお住まいの若年性認知症の方が活動するミュージシャン[ミチヨ&オイワ]の2人をお招きして、ライブとご本人メッセージを語って頂きました。

【活動の成果】

成果として、4月は参加0人の日もあったが、回を重ねて月平均10名の参加が増えていき地域の中で少しずつ浸透しています。「役所へ認知症の事を相談に行ったときに、ここのカフェを教えて貰った」「認知症の事をもっと知りたい」「子どもが泣いても遊べる場所があるので助かる」等の声がありました。

今後の展望

これからも認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるような活動をしていきたいと思えます。今後、カフェでサポーター養成講座を行う際、サポーターの証であるオレンジリングを和袈裟で作成し、住職に着用して頂き認知症の理解者である仲間を増やす取り組みを企画しています。和袈裟を作成するにあたり地域の企業や認知症の人と家族の会(京都支部)会員の有志メンバーで集まるサークルの方にも協力を得る予定です。